令和６年度第２回循環型社会推進会議　議事要旨

１　日　時　令和６年 12 月 10 日（火）14:00～16:00

２　場　所　城南衛生管理組合　事務所棟　大会議室

３　出席者

（委員）

郡嶌孝委員、北川秀樹委員、岸敬子委員、嶌繁行委員、原保彦委員、田中仁美委員、生駒智史委員、八木英夫委員、家村咲栄委員、岩瀬剛二委員、髙田重晴委員、中村麻伊子委員、福田佐世子委員、山下正則委員、谷口浩一委員、岡﨑朋二委員、梶原哲郎委員、中村浩二委員、奥山英高委員

（事務局）

野村賢治専任副管理者、山本晃治総務部長、川島修啓施設部長、橋本哲也総務部次長、五十嵐正和循環型社会推進課長、別所尚紀広報協働課長、川戸辰也施設課長、増田清孝循環型社会推進課課長補佐、福山さやか施設課課長補佐、田邉知世循環型社会推進課主事

４　議事次第

１）　開会

２）　委員長あいさつ

３）　議事

（１）立命館宇治高等学校意見交換ワークショップに係る報告

（２）これまでに出された意見に対する減量施策について

（３）その他の報告事項

４）　その他

５）　閉会

５　会議概要

１）会議の開催にあたり、郡嶌委員長から挨拶がなされた。

暮れのお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。過日、立命館宇治高校の学生との意見交換ではご出席いただきありがとうございました。私たち自身もやってみてよかったと感じています。と言いますのも、若者の意識というのは分かりにくいが、彼らの意識の一片は理解できた気がします。一つは、彼らはＺ世代と言われる世代で SNS や IT に強いと言われていますが、そんな世代が環境問題を考えていくにあたって、一般的に少し上の世代では環境破壊をしてきたのは親世代、親が加害者であって、自分たちは被害者という意識を持っていることが多いが、Ｚ

世代はそうではないと分かった。親が環境に影響のある生活をしてきたのは確かだが、我々が環境を良くしていく、模範行動を示し親を教育していく、そのような意識を持っているという気がします。感銘を受けたのは、ボランティア活動の意識。我々の時代は無償奉仕と言われていたが、彼らは少なくとも活動の採算性が合う、持ち出しにならない、出来ればビジネスモデルになって儲かればいいという考え方。ある程度そういう部分を考えてあげないといけないと感じた。このような活動は非市場的な活動も利用していかないといけない。非市場的とはごみ問題を考えていくうえで重要な考え方。リセールにしても、市場で売るだけではなく物々交換も可能。お金というのは、物を回す上において、あるいはごみを資源に変えた努力として、お金にとって代わる何らかの通貨が必要。これをポイント制、あるいは地域通貨でできないかと考えている。ごみ減量のために分別をしてもらうと、それに対しポイントがもらえるようにすれば、分別に取り組むようになる。例えば、組合１階でリユース品を購入できたり、地域でもポイントを使用できるものにすればいい。京都市の例を見てもわかるようにごみの減量に非常に有効なごみの有料化はポイントの原資として考えられる。有料化を前面に出すのではなく、ポイント制を通じながら地域で回していく。有料化によりごみ減量を行い、減量活動によってポイントを得ることができれば二重にごみ減量が可能となる。このことを環境経済学では「二重配当」と言っていて、ごみを減らしながら、リサイクルを増やしていくというもの。ごみを出すほど有料化は高くつく。逆に言えばごみを減らすことができれば得、有料化の分が相殺される。そんなポイント制を今日は考えていただきたい。既にポイント制を導入されている市町もあり、これをごみにまでポイント拡大していくことによって、さらに従来の活動を支援していくことが必要。そういった活動のヒントを与えてくれたのは、若い世代の活動。

ご非難等いろいろあるかと思うが、事例等の紹介も受けながら今日はやっていきたい。

２）事務局から、議事（１）立命館宇治高等学校意見交換ワークショップに係る報告、（２）これまでに出された意見に対する減量施策についての説明※が行われた。（３）その他の報告事項については特に報告はなし。

※　事務局からの資料２－２に係る先進事例の補足説明は別添のとおり

３）議事（１）についての主な意見は、次のとおり。

・学生たちがごみの減量について考え、さまざまな取組をしていることが分かったが、学生のみで活動していることが多いと感じた。我々が援助できるとすれば PR を行い取組を広げていく、金銭的な支援を行う、活動の場所を提供すること。

・学生が積極的に取り組んでいて感心した。

４）議事（２）についての主な意見は、次のとおり。

・ごみの減量活動にまで広げたエコポイント制度であれば、住民に受け入れられやすいのではないか。また、ごみ袋の有料化による収入を原資に還元できるような制度であればわかりやすい。

・スーパー等も巻き込んだ統一したエコポイントにできれば利用者も増える可能性があるが、多くの店舗では自店舗でのみ利用可能な制度としている場合が多い。

・エコポイントと有料化をつなげていくというのは新しい手法。しかし、国内でエコポイント制度が成功した事例というのはあまり聞いたことがない。

・エコポイント制度を導入されている管内の市町の状況を教えてほしい。また、城南衛管を構成する市町でごみの分別方法が異なるというのは組合にとってプラスにならないのではないか。分別方法は統一すべきと考えるが、統一は可能なのか、難しいのであれば何が障害となるのか。

→【エコポイント制度に係る構成市町委員報告】

（宇治市）

R6.10 末時点での登録者は 2,059 人

啓発イベントへの参加、公共施設での資源回収に取り組むなど、エコアクションに取り組むことでポイントが得られる。

（城陽市）

各種環境イベント、取組に対しポイント付与

小中学生を対象とした作品展やグリーンカーテンフォトコンテストへの応募を取組対象としているのが、城陽市の特徴

（久御山町）

LED 照明の購入、太陽光発電や EV 車の購入など環境負荷に特化した取組が中心。特徴としては地産地消の取組で、ポイント付与が一番多い。

・ごみの名称について、「生ごみ」と言われると水分を含んでいるという意味になっており、例えば「乾燥ごみ」に変更すれば水分を含んだ状態で捨ててはいけないと意識が変わるのではないか。また、今回紹介してもらった「キエーロ」についてもとても驚いている。生ごみが全て消えてしまうということが本当であれば素晴らしいことなので、一度試してみたい。

・ごみをゼロにすることが必要。生ごみなどは「コンポストごみ」でたい肥等による自然循環、資源化可能なものは「リサイクルごみ」、それ以外の残ったものは「リサイクルできないごみ」という名称にし、拡大生産者責任を求めることでリサイクル可能な素材への転換が進み「リサイクルできないごみ」を減らすことで最終的に埋め立てるごみを減らしていくことが可能となる。

・「プラごみ」もリサイクルされているが、家庭では資源化されているという意

識はない。こちらもごみという名称を変えるべき。

・古紙回収であまり雑がみが回収されていないとのことだったが、例えば枚方市では市が雑がみ回収しており、回収対象物や禁止物についても詳しく周知されている。

・私の住んでいる町内会では、古紙回収の回収量や報奨金額について回覧されており、どれだけの人が参加しているのか知ることができ、意識向上につながっている。

・ごみを埋め立てている処分場は 10 年程度で満杯になると聞いた。災害などが発生すればさらに短くなる可能性がある。また焼却工場等についても、必要な施設だが、自宅近くにできれば反対されることが多い。建設費用も莫大になり、新規で処理場を作るのは困難ということを住民に知ってもらうべき。

・量が多い家庭系のごみ減量が重要。徹底した分別に協力してもらうべき。

・例えば、１人１日あたりの減量目標を設定する場合、分かりやすくペットボトル１本分等と周知すべき。

・ごみ減量のキャンペーンを実施してはどうか。ごみ減量週間を設定し減量取組を推進する。

・家庭ごみの減量において物を購入するときが重要だが、価格が優先され何がごみになるか考えずに購入することが多い。例えば、大容量の商品を買って容器ごみを減らすというような考え方を、リサイクルする前のリサイクルという意味で「プレリサイクル（プレサイクルと略することもある）。」と呼んでいる。ごみの減量で一番大事なのは家庭からのごみ。提言取りまとめについては、これらの視点に基づく減量施策盛り込みも検討したい。

５）その他意見

・組合に出される提言を基に、今後各市町におけるごみ減量のあり方が決まっていくものであり、提言案を一度見ただけでその良し悪しを判断するのは難しい。これまで、ごみ袋の有料化を前提としたエコポイント制度の導入等が提案されたが、もう少しごみ袋の有料化について議論を深める必要があるのではないか。

→次回、骨子案の議論の前にごみ袋の有料化についてという議論を持たせていただきたい。

・通常、提言をまとめる際パブコメを実施することが多いが、今回その予定はあるか。

→パブコメの実施は予定しておりません。

６）今後の予定について

・第３回推進会議では、ごみ袋の有料化について議論を深める。

・ごみ減量施策に係る提言骨子案を示し議論を深める。

・年度内に提言取りまとめ予定

事務局による資料２－２先進取組事例に係る補足説明

【区分：紙ごみ】

紙くずの先進事例を見ますと、回収を行政自身がやっている例があります。亀岡市では地域回収を優先しつつ、雑がみを月１回ステーション回収しています。

また民間の資源回収拠点を利用する例などがあります。向日市では去年から日本紙業（有）とコラボして「むこうしエコゲート※」（古紙等回収拠点）をオープンしました。浄水場の一画に新聞紙、チラシ、雑誌、雑がみ、段ボール、古着等回収拠点が開設されました。土日祝日も開いています。

（※エコゲート：常設型セルフでの古紙受入れ施設（無人）のこと。日本紙業(有)により商標登録されています。）

南丹市にもエコゲートがあります。亀岡市ではエコゲートが９か所ありますが、スーパーやドラッグストアなど民間事業者が行っている資源ごみ拠点回収の一覧も紹介されています。

資源ごみ拠点回収マップの先進事例としては、浜松市や静岡市では資源回収店舗マップを提供されています。

京都市の資源ごみ拠点回収マップは、近くにどんな回収拠点があるか一目でわかるようになっています。

3 市 3 町ではシュレッダーごみは雑がみとして取り扱っておりませんが、亀岡市、京都市、高砂市などで、雑がみとして回収している事例があります

小牧市では 2017 年から、西尾市では 2020 年から、稲沢市（いなざわし）では今年から、汚れた紙以外の全ての紙、防水加工紙、感熱紙、裏カーボン、シュレッダー紙や金属プラのバインダー、窓付き封筒などを雑がみに拡大し資源回収されています。

【区分：生ごみ】

３キリ運動では、京都府内において、「京都府食べ残しゼロ推進店舗」としてスーパーや飲食店が多数登録されており、今後さらなる広がりが期待されているところです。

ゼロ・ウェイストを宣言している神奈川県葉山町では、消滅型生ごみ処理器の「キエーロ」の普及啓発に努めています。箱に入れた黒土に混ぜるだけで生ごみが消滅する仕組みです。葉山町では日処理量１０ｔのキエーロを製作し、稼働させる予定とのことです。

広島市では、大学や高校の学生さんに「エコクッキングレシピ」の作成を依頼し、学生が自ら動画作成されています。

例えば、比治山大学　管理栄養学科の学生がレシピを作成し、安田女子大学造形デザイン学科の学生が動画作成されています。別のものでは広島文教大学の学生がレシピを考案し、広島経済大学の学生が動画作成されるなど様々な連携し

た取組を展開されています。

また、安田女子大学の学生が講師となったエコクッキング教室を２回、広島文教大学の学生が講師となったエコクッキング教室を１回開催するなどされています。

京都商工会議所が大阪ガスと連携して出張授業 エコクッキングという小学校5～6年生対象にした90分の出前授業を開催しています。

【区分：プラごみ】

目黒区では、エコテイクアウト推進事業といってプラスチック製ではない紙、木、竹、草などの環境に配慮した素材の容器包装を導入する事業者を支援し「脱プラスチック」生活チャレンジ事業などを展開されています。

堺市では、大阪公立大学と連携して「プラスチックフリーな大学生の１日」と、「プラスチックまみれな大学生の１日」を記録し、パネルとしてまとめられています。プラスチックまみれな１日では178gだった使い捨てプラスチックの使用量は、プラスチックフリーな１日では24gと85%削減でき、マイバッグやマイボトル携帯の重要性を訴えられています。

【区分：その他減量施策】

愛知県衣浦（きぬうら）衛生組合リサイクルプラザでは家具を修理し展示、毎月入札を実施されています。

埼玉県蕨戸田（わらびとだ）衛生センター（iso14001:2015取得）でも家具の再生修理販売をインターネット入札や先着販売を実施されています。大変盛況の様です。

家具以外でも高砂市の「エコクリーンピアはりま」で不要になったベビー用品を集め修理し、常時展示・貸出を昨年から始められています。

フリマサイトとの連携では、当組合も「ジモティ」と連携していますが、西宮市では「ジモティ」に加え「メルカリ」、粗大ごみの「おいくら」も活用されています。大阪市も「ジモティ」と「おいくら」を活用されています。

リユースショップとの連携では豊中市が「ふくちゃんリユスタ」を活用されています。岩手県紫波（しわ）町では「エルテス」、「ウリドキ」を、最上町では「ソフマップ」によるＰＣリサイクルを、相模原市では「ブックオフ」をそれぞれ活用されています。

事業系一般廃棄物についてですが、紙おむつの回収では、この春、亀岡市が保育所の紙おむつを、パルプとプラスチックに分ける再資源化実証試験を（株）浜田、南丹清掃（株）、栗田工業（株）と始められています。

千葉県松戸市でも、クリタグループが開発した使用済紙おむつ分別処理装置「クリタサムズシステム®」を用いた医療機関や福祉施設から発生する紙おむつのＲＰＦ化試験に取り組まれています。鹿児島県志布志市では、ユニ・チャーム（株）と協力し、紙おむつ回収しパルプやプラスチックリサイクルの実証試験に

取り組まれています。

京都市は、祇園祭のごみゼロ作戦を実施しています。2014 年、夜店や屋台の協力のもと、日本初、そして世界初の試みとして、約 21 万食分の使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動を展開。ボランティアスタッフ 2,000 名と共にエコステーションの設置、ごみの分別作業等を行い、来場者数 50 万人で 60 トンだった燃やすごみが 2024 年には来場者 49 万人 32 トンにまで減量させています。天神祭りでもこの活動を広げています。

梅小路公園で毎年開催される京都音楽博覧会では、使い捨て食器は禁止です。竹からつくったバイオプラ食器を使うなどイベントを通して意識醸成する取組が進んでいます。太陽が丘で毎年開催されるロックフェスティバルの京都大作戦と双璧の音楽イベントだそうです

亀岡市でも亀岡平和祭保津川市民花火大会のエコステーション活動を始めています。大阪でも大阪天神祭ごみゼロ大作戦を展開しています。渋谷でもハロウィンごみゼロ大作戦 in 渋谷を展開しています。

次にショッピングモールの活用です。

一昨年、イオンモール久御山で京都府と佛教大学のコラボで『海洋ごみから作ろう、マイアクセサリー』イベントを開催しています。同じ事業をイズミヤショッピングセンター六地蔵店、高野店や白梅町店でも開催しています。

今年の６月にイオンモール高知で環境に配慮するための３つのことばを名前に持つ「リデュース」・「リユース」・「リサイクル」の３人のヒーローが登場するレンジャーショーや、落ちているゴミを釣り上げて分別するゲームなど親子向けの環境啓発イベントがありました。10 月にイオンモール草津で、サーキュラーエコノミー促進啓発イベント「「楽しく学ぼうサーキュラーエコノミー」at イオンモール草津」を開催しています。１１月には「プラごみなくそう！in イオンモール大和郡山」が開催されています。

阪急うめだ本店で ReWave が開発した海洋ゴミ学習カードゲーム「Recycle Master（リサイクルマスター)」のワークショップが開催されています。

3 歳以上の子供を対象にした、ゴミの素材別に集めた「ゴミカード」を、素材に応じた「リサイクルカード」と組み合わせて「プロダクトカード」と交換し、海洋ゴミやリサイクルの仕組みについて学ぶカードゲームです。全国のポロ ラルフ ローレン チルドレンのストアで開催されています。

【区分：周知啓発】

ごみの分別辞典ですが（株）G-place 提供の「ごみサク」という分別辞典アプリを宇治市、八幡市、久御山町で採用されています。

（府内１０市町で採用されています。京都市、長岡京市、向日市、精華町、木津川市、亀岡市、京丹後市、宇治市、八幡市、久御山町）

三鷹市では、「ごみ分別チャットボット（ごみ分別案内アプリ)」を開発されて

います。英語、中国語、ハングル、ベトナム語、多言語対応です。会話形式で対応してくれるので分かりやすいです。

千葉市の「家庭ごみチャットボット」はカメラ機能があり、撮影したものの分別区分を答えてくれます。ただ、バインダーを本と認識してしまったり、シュレッダーした紙の袋を布団と認識したり、まだ開発途上といった感はあります。

スタートアップの取組ですが、トラッシュレンズというアプリがあります。捨てたいものをスマホで撮影するだけで AI が自動判別して、その地域の分別方法に従った捨て方を提示してくれます。

非常に旨くＳＮＳを活用している自治体もあります。

姫路市の「分かりやすいゴミ分別」啓発動画、「必分（ひつわけ）！ごみ分別人」は、YouTube 視聴回数、２万件です

学生時代に、「第 50 代姫路お城の女王」に選ばれたこともあるタレントの近藤由紀さんを主婦の近藤美化さんとして登場させています。

江戸川区の「正しくできていますか？資源とごみの分け方･出し方」動画もアナウンサーでＪＣＯＭの江戸川区民ニュースのレポーターをしていた萩原菜乃花（はぎわら なのか）さんフォロワー2.4 万人を使い視聴件数２万７件です。

大阪市清掃局が「試してみよう!!ごみ分別アプリ「さんあ～る」」の説明をした 2 分動画が 3.8 万回の視聴を記録しています。特にタレントなどの起用はないですが、テンポよく分かりやすい動画です。

乗り物も人気のようで、「みんな知ってる？ごみ収集のお仕事！」7 分動画ですが７万回、「すごいぞ！ごみ収集車」５分動画で 3.7 万回、ゆくえシリーズも人気で、乾電池のゆくえ～乾電池リサイクルシステム～２分動画が 3.8 万回、蛍光灯管のゆくえ～蛍光灯管リサイクルシステム～3 分動画１万回

東京都中央区では令和６年度より、区立学校・幼稚園の標準服・園服を回収し、クリーニングや補修を行った上で、必要とする子どもの保護者にクリーニング等の実費相当額で譲渡する「中央区標準服等リユース事業「りゆぽ～と」」を実施しています。ネットで在庫検索もできるものです

藤沢市では 100 団体ほどで構成する「ふじさわ SDGs 共創パートナー」の「学生服リユース shop さくらや藤沢店」と共同で、不要になった学生服の回収ボックスを市役所に設置。回収した学生服は事業者が査定、買取相当金額を市のこども未来基金に寄付。学生服は障がい福祉サービス事業所でクリーニングされたのち、リフォームされ、安価で販売。同じ仕組みで市役所本庁舎においてランドセルの無償譲渡会を開催しています。

台東区では子供服のリユース・クローゼットを区が「環境ふれあい館」という場所を提供し、運営を NPO 法人 CoCokura が行っています。

千代田区では、営利を目的としない環境・リサイクル活動フリーマーケット開催に、支援しています。

フリーマーケット会場（ホールなどの区施設）の確保や千代田区の広報紙・リサイクル情報紙等による周知、ポスター・ちらしの印刷（原稿と印刷用紙は、ご用意いただきます）区内掲示板等へのポスター掲示、のぼり旗と参加者バッジの貸与などの支援をしています。

自治体がフリマ・マルシェをしている例があります。多摩ニュータウン環境組合は、小さなフリマ、「エコにこマーケット」を土日開催し、１日 300 円で出店者募集しています。家具の再生販売もしています。

（株）みらい武士が「お東さん広場」、「岡崎公園」で古着や家庭の不用品、雑貨などのフリーマーケット＆ハンドメイド雑貨などのマルシェを隔週で開催しています。

なでしこふれあいマーケット協会が、太陽が丘で春秋に隔週で、文化パルク城陽、12 月にスーパーセンターイズミヤ八幡でフリーマーケットを開催しています。

最後の経済的手法、エコポイントの導入については、委員長から別途ご説明させていただきます。説明は以上です。ありがとうございました。